

クラブ活動発足式

クラブ活動は、4年生以上の子供たちで組織されていて、学年や学級が異なる同好の子供たちが集まって行われる活動です。この時間は、自分のやりたい活動を、学級とは違う仲間とともに楽しめるよさがあります。また、ただ楽しむだけではなく、クラブ活動は組織づくりと運営を体験する場所でもあります。クラブ活動は子供たちの自発的な活動になるようにします。そのためには、子供たちがつくりたいクラブを立ち上げることが第一歩です。帯西でも、4月当初に担当からアンケートを子供たちに募って、クラブを決めていきました。そして、次のようなクラブができました。「バドミントン、ボール、イラスト、工作、音楽、昭和、タグラグビー、室内ゲーム、ダンス」の九つのクラブです。今日の発足式は、各クラブに集まって、クラブ長を中心にメンバーが話し合っ

てクラブの年間活動計画を立て、年間の活動内容を決めていきました。今後も、同好の仲間と共に活動を楽しむことのよさや意義を体感しながら、子供たちの生活が少しでも豊かになることを願っています。



「地上の太陽」づくりを目指す!

昨年度の卒業生から、卒業前にもらった手紙があります。そこには、「日本のエネルギーに私が革命を起こします」という一文が書いてあります。その子供とはよく、日本の電力事情などを話していました。そのことを思い出していると、4月に岸田総理とバイデン大統領との首脳会談で、「核融合」を使った発電の実現に向けて協力することで一致したというニュースが耳に入ってきました。核融合という現象は、太陽で起きています。1500万度となる中心部では、水素の原子核同士が合体してヘリウムに変わる際に大きなエネルギーが生まれます。この太陽で起きている現象を地上で実現しようとしているのが核融合炉です。核融合の燃料に用いる重水素は海水中に豊富に存在しているため、低コストで莫大なエネルギーを得ることができます。さらに核融合は、高レベル放射性廃棄物や二酸化炭素が発生せず環境に優しいこと、暴走や爆発の心配がなく安全性が高いこと、燃料1gが石油8tに相当し熱効率が高いことなど多くのメリットがあります。

しかし、核融合発電では、発電施設の建設に巨額なコストがかかります。現在フランスに建設中の国際熱核融合実験炉 (ITER) は、総建設費が3兆円近くにも上り、日本はその約1割を負担することとなっています。まだまだ実現化には時間がかかりそうですが、最近ではベンチャー企業も核融合炉の実現を目指しているそうです。

これからを担う日本の若者たちが、「地上の太陽」づくりに参画することで、いつの日か、日本が世界にエネルギーを輸出する国になることを密かに夢見ています。

